

篠木ふみ

SASAKI FUMI PRESENTS



〜片恋のつもりだった初夜の埒外の甘さに〜

第1話


CYBERIA COMICS

RAKURAKU SHUPPAN

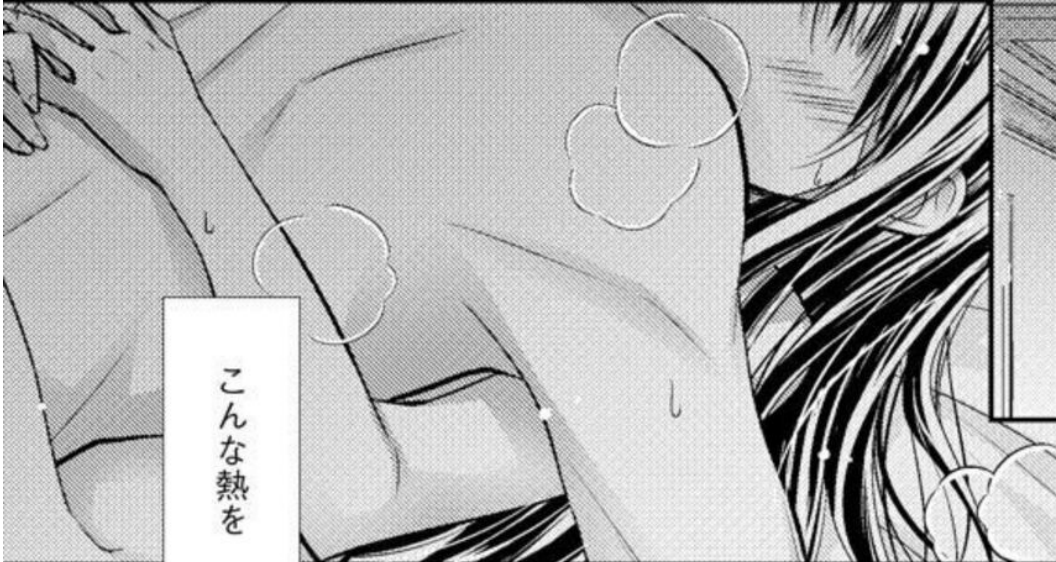
The Last Violence, Immoralities and Forbidden Idea.

We're Neo Erotica Evolution, "CYBERIA".

©SASAKI FUMI




知らなかった



こんな熱を



こんな眼差しを



こんな気持ち



君が

僕の名前は
日下部 國晴

由緒ある
日下部家の長男に生まれ
本日婚姻の日を迎えた

今日から家名を同じくする
伴侶の名は日下部 千明

母が女学校を訪問した時に
見つけてきた娘だそうだ

その後
両家の親同士の間で
縁談がまとまり

当の僕らには決定事項として
結婚相手が伝えられた

この時代僕らのような
歴史ある家の子息しごには
珍しいことではないけれど

やはりいざ何も知らない女性を
相手に結婚…となると
最初は戸惑とまどいもあった

結納の日

僕らは初めて顔を合わせた

…お初に
お目にかかります

日下部國晴様

一葉家の
千明と申します



不束者では
ございますが

どうか…よろしく
お願い申し上げます

小さく
微かに震えの交じる声

「慎ましい」「儂い」
そんな第一印象だった



顔も知らぬ相手との結婚など

男の僕でさえ戸惑うものだ

まして
こんな少女にとっては

不安になるのも
きっと無理からぬことだろう

…初めまして

千明さん

努めて

柔らかい声で喋った

こちらこそ
…よろしく頼む

威圧しないように

ひと言
ふた言
確かめるように



千明…

と呼んでもいいかな？



えっ

…

嫌だったら
すまない

そんなに

絶句される
とは…

と
とんでも
ございません…！

びびりました
だけですよ…！



あの…
もちろんそのように
呼んでいただければ…

國晴様は
旦那様となる
お方なので…

我ながら
距離の縮め方も不器用で

千明はいつも
萎縮していた…
ような気がする



國晴様のおうちは
洋犬なのですね



ああ
千明の家にも
何かいるのか？

うちにはお座敷に
和犬がおりまして…

でもどんな子でも
わんちゃんは
かわいいと思います

ふわ



ああ
こんな顔もするのかと

君のことを
少しづつ知って行って



あつ…私ったら
わんちゃんだなんて…

すみません
子どもっぽいですがよね…

はっ



しっかり

しなくては…



謝ることで
ないさ

…いいえ…

いつまでも
子どものままでいては
いけません…

そのどこか思い詰めた
ような声を聞いたたびに

いろいろと
抱えるものが
あるのだろうと

望まぬことも
あるのだろうか

考えずには
いられない

たとえば

結婚……も
そうなのだろうか……

君の……その決意は
尊重するが

無理をしてもよい結果は
得られないのではないか

いや
すまない

責めている
つもりはないんだ

皮肉な話だ

君の志は

立派だと
思っているよ

ままならぬ立場であるが故に
彼女の懸命さは
その誠実さを如実に表している

その中で時折
垣間見せる幼い素顔は
一層愛らしいと思えた

そして

そんな君が僕の隣に
いる未来を語ることを

その健気さを

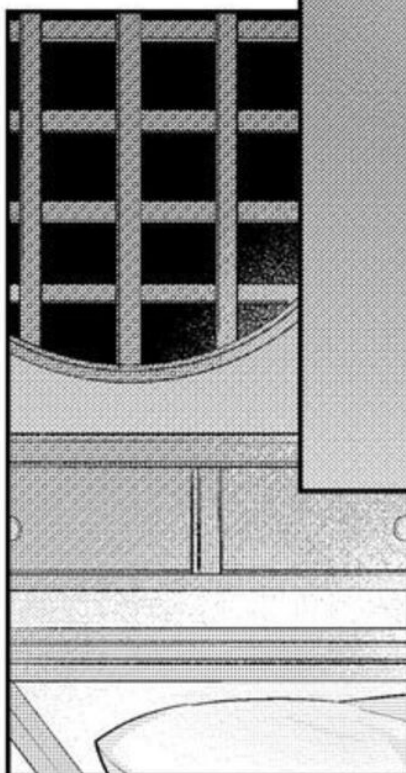
僕はうれしく
思ってしまった

君との日々を
望んでしまったことに

僕はいつしか
気づいていたんだ



あ…あの…



ああ…

……

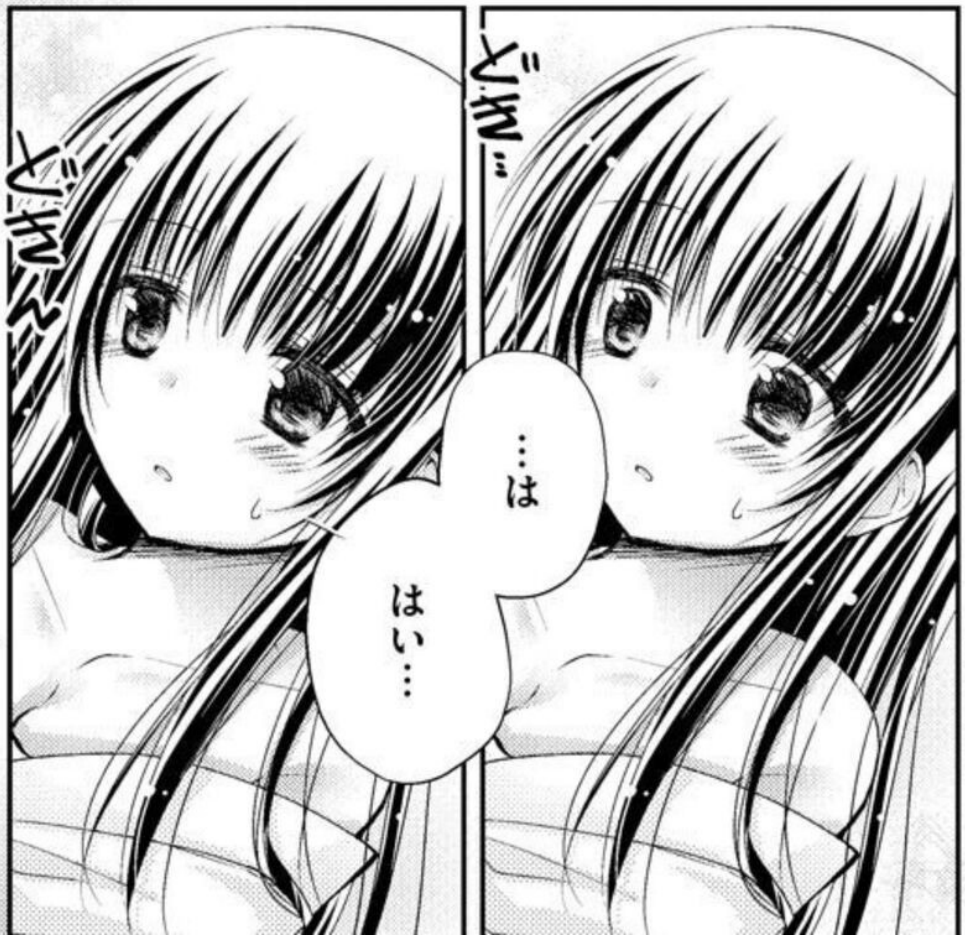


…何をどう言えば
安心させて
やれるだろうか…



いたらない点も
多いかと存じますが…

よ…よろしく
お願いいたします…





いや
そんなことは
ないよ
脱がせたのも
僕からだし

あ…あの…
余計なこと
でしたか…?

自分から…
ごん…

んっ
ぎゃー

あ…
びん

もっ…
もい
もい…
いろいろして
いただいても…

うん?

あ…
えっと…
はっ
ぎゃー



もっと嫌がられたり

怖がられたりするのかと
思っていたのに

驚いた







熱を帯びて潤んだ瞳に

吸い込まれるようだった

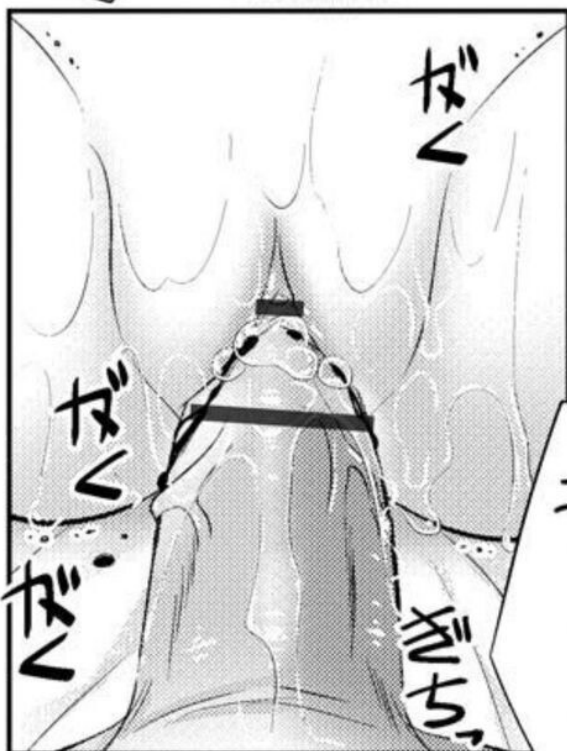


ズン、

あ

みち
みち

ハヤム...



かん

かん
かん

みち



おん
おん

うん
うん

みち

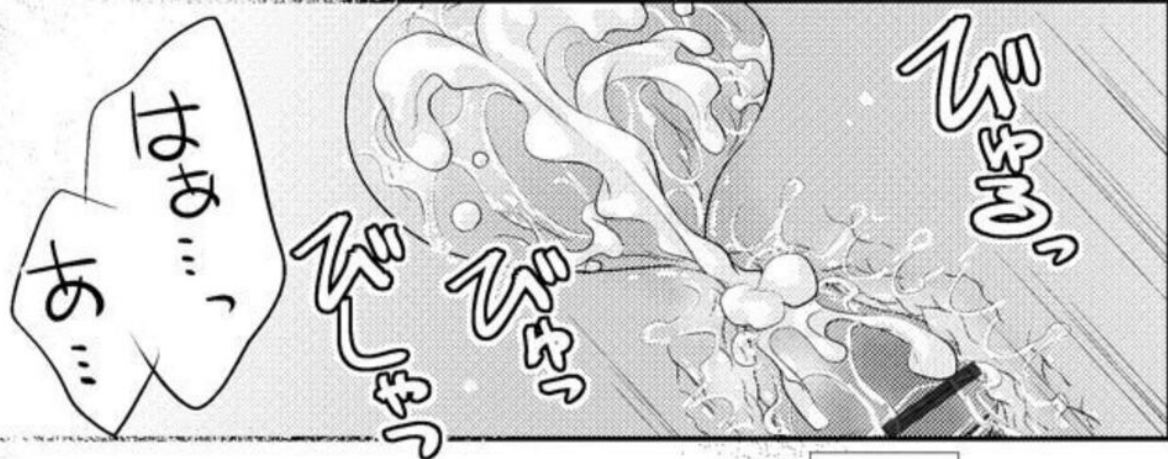
みち

ん
ん

みち

みち





：しかたがないと
思い込んでいた

心を通わそうなどと
詮なきことだと

波風立てて
困らせるだけだと

でも今夜



は！

は！

僕は知らなかったことを知って



…千明

いまだ知らぬことがあるのではと気づいて

君も僕を知らないのではないかと思いついて

…國晴…さま…？

もしそうであるならば



ただ穏やかに隣にいただけでなく

向き合って生きることを期待してもいいのなら

僕は――

…君に

伝えたいことがあるんだ――



To Be Continued..